

■ 国史跡鴻臚館跡整備基本構想【概要版】

I. 基本構想の目的と整備上の課題（P 1～21）

1 目的（P 1）

鴻臚館跡の現状や課題の整理を行うとともに、セントラルパーク構想及び福岡城跡整備基本計画との整合を図りながら、「国史跡鴻臚館跡」を適切に保存し、鴻臚館の本質的価値や福岡城跡との歴史の重層性などの特徴を活かした整備・活用を推進するもの。

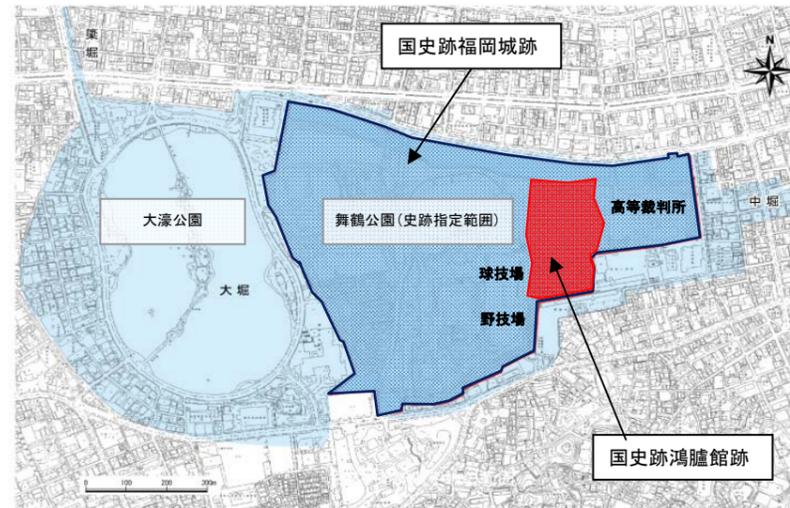
2 対象範囲（P 2）

対象範囲は、「国史跡鴻臚館跡」の範囲（福岡城跡整備基本計画の「鴻臚館ゾーン」）を原則とする。

加えて、史跡指定範囲外で鴻臚館の関連施設が予想される範囲（舞鶴球場、野球場、福岡高等裁判所等）も含めて取り扱う。

3 課題（P 20～21）

課題として、①鴻臚館の実態に迫り、本質的価値を高めていく、②鴻臚館の本質的価値を保存し、それを顕在化していく、③鴻臚館を将来にわたって活用していくことが挙げられる。



国史跡鴻臚館跡、福岡城跡位置図

II. 整備の基本理念（P 22～25）

1 基本理念（P 22～23）

整備の理念の観点として、

- ① 「**アジアの交流拠点の歴史** — 古来より続く国内外の人々が行き交う場 —」の認識
- ② 「**鴻臚館とその時代** — 古代日本の交流の結節点の役割が理解できる場 —」の再現
- ③ 「**歴史の重層性** — 福岡の都市形成の歴史を物語る場 —」の保存
- ④ 「**交流と学び** — 国際交流で育んだ歴史・文化を継承する場 —」の振興

4つの観点を整理した上で、以下の基本理念に掲げ、それに基づく将来像の実現を目指す。

「アジアの交流拠点都市福岡の原点 鴻臚館 — 時をたどり、人々が行き交う場に —」

2 基本的な方向性（P 23）

- ① 鴻臚館の全容解明を進め、国際交流の歴史を紐解く**本質的価値を高める**（調査・研究）。
- ② 古代より続く歴史の重層性を保存し、**時の移ろいをたどる**（保存・整備）。
- ③ アジアとの国際交流の歴史を**ともに学び**、そこで育まれた文化を未来に継承する（公開・活用）。
- ④ 国内外の**人々をつなぐ**交流の拠点として、魅力的な場所づくりを進める（公開・活用）

3. 整備に向けた考え方（P 24～25）

調査・研究

- ① 鴻臚館の全容と関連遺跡とのつながりの解明
- ② 鴻臚館の果たした役割の解明

保存・整備

- ① 二つの史跡の重層性を保存し、その特徴を活かす
- ② 鴻臚館の歴史的空間、特性を表現

公開・活用

- ① 福岡市の歴史と文化財保護の象徴として、市民の理解と認識を深める
- ② 福岡市のシンボルとして、市民が憩い、誇りを感じる史跡へ
- ③ 国内外の人々に鴻臚館の魅力を伝え、歴史的特性を活かした現代的利用を図る

III. 整備の基本方針（P 26～36）

1 ゾーニング（P 26～28）

①南館・北館ゾーン

鴻臚館の中心的な施設として、時の移ろいを体感できるゾーン。

②外郭ゾーン

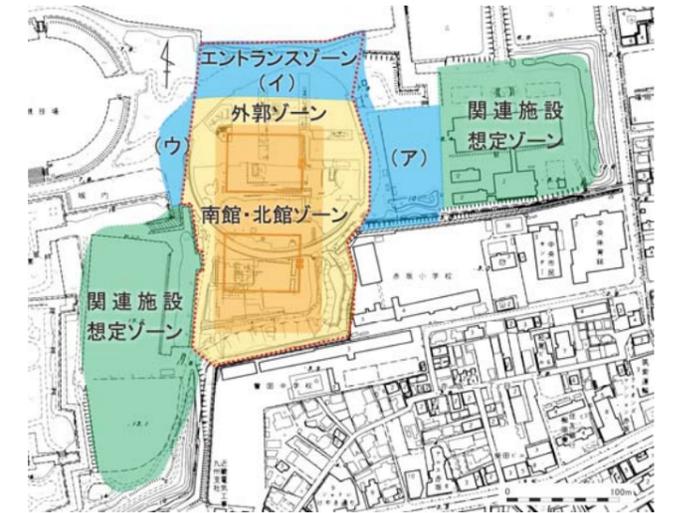
鴻臚館跡と福岡城跡との境界領域を形成するゾーン。

③エントランスゾーン

鴻臚館跡の入口であり、古代の対外交流と福岡城との歴史の重層性の入り口のゾーン。

④ 関連施設想定ゾーン

鴻臚館関連施設が存在する可能性があり、今後確認調査を実施するゾーン。



ゾーニング図

2 調査・研究（P 28）

- ① 鴻臚館の全容解明に向けた調査・研究の継続

3 保存・整備（P 28～31）

- ① 復元の対象時期については、時期ごとに特徴があるので、鴻臚館とその時代が体感できる時期と方法を検討する。

4 公開・活用（P 31～33）

- ① 情報発信
- ② 歴史学習
- ③ 交流促進
- ④ 観光拠点

5 段階的な整備の方針（P 34～36）

具体的な整備の内容やスケジュールは整備基本計画で検討することになるが、この構想では基本計画策定から概ね15年間の段階的な整備としての前期、後期の方針案及びその後の将来像の方針案を示す。将来像については基本理念に基づき、「**アジアの交流拠点都市福岡の時をたどり、人々が行き交う場の実現**」を目指していく。

